試験研究成果普及情報

部門 果 樹 対象 普 及

課題名:南房総地域における極早生温州の品種特性

[要約]極早生温州4品種について、慣行及び根域制限マルチ栽培において品種特性を 比較したところ、熟期は「岩崎早生」、「日南1号」、「宮本早生」、「上野早生」の順に早 く、「岩崎早生」は10月上旬から収穫期となる。「宮本早生」は収量性に優れる。

フリーキーワード 極早生温州、品種特性、根域制限、マルチ

実施機関名 主 査 農業総合研究センター暖地園芸研究所果樹研究室

協力機関 なし

実施期間 1994年度~2004年度

「目的及び背景」

南房総地域の観光農業を推進するため、ミカン狩りシーズンの拡大や直売における商品の充実のための一手段として、早生温州より1か月程度熟期の早い極早生温州の導入が考えられる。根域制限と防水透湿資材による被覆(マルチ)を行って栽培すると、良食味で高付加価値の果実が生産できる。そこで、西南暖地で主流となっている品種群の千葉県での栽培特性を明らかにする。

「成果内容〕

- 1 「岩崎早生」:根域制限マルチ栽培における平均糖度は、供試した他の極早生品種と同程度であった。また、同品種を慣行栽培した場合より3.3%向上する。減酸が最も早く、10月上中旬に収穫できる。高酸となりやすい根域制限マルチ栽培に適する。果皮の着色は遅いため、果実品質を見て収穫適期を判断する。収量は1.5 t/10 a と低いが同品種の慣行栽培と同程度の収量が得られる(表1)。
- 2 「日南1号」: 糖度は供試した他の極早生品種と同程度の値を示す。減酸は「岩崎早生」 に次いで早く、熟期は10月中下旬となる。収量は「岩崎早生」よりやや多く、「日南1 号」の慣行栽培と比較するとやや少ない(表1)。
- 3 「宮本早生」: 糖度は供試した他の極早生品種と同程度である。減酸は「日南1号」に やや遅れ、熟期は10月下旬。収量は2.6 t/10 a で極早生品種の中で最も多い(表1)。
- 4 「上野早生」: 糖度は他の極早生品種と同程度である。減酸が最も遅いため、熟期は 11月上旬となり、特に高酸となりやすい根域制限マルチ栽培には向かない。果皮の着色 の進みは早い。収量は 1.3 t で供試品種の中で最も少ない (表 1)。

「留意事項]

- 1 根域制限マルチ栽培において、「岩崎早生」、「日南1号」、「上野早生」の収量は、早生の主要品種である「興津早生」の50~65%、また「宮本早生」は「興津早生」と同程度の収量が得られる。
- 2 極早生温州は早生温州と比較して樹の生育が緩慢なため、植え付け時は2~3年生の

大苗を導入し、樹冠が十分拡大してから着果させる。

- 3 花が着きやすいため着果過多に注意し、葉果比は30以上とする。
- 4 収穫後は窒素を主体とした葉面散布を2、3回行い樹勢の回復を図る。

[普及対象地域] 県内のミカン栽培地域

[行政上の措置] なし

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 極早生温州の栽培方法及び品種の違いによる収量、果実品質の比較

栽培方法・品種	収量		糖度	クエン 酸含量	糖酸比	1 果 平均重
	kg/樹	t/10a	Brix%	g/100m1		g
慣行栽培						
岩崎早生	5.5	1.4	8.2	0.94	8.8	122
日南1号	7.8	2.0	9.0	0.89	10.4	120
宮本早生	14.1	3.0	9.2	1.03	9.4	112
上野早生	4.6	1.2	9.3	1.06	8.8	115
興津早生	22.0	4.6	9.2	0.91	10.2	115
根域制限マルチ						
岩崎早生	5.9	1.5	11.5	1.11	10.4	88
日南1号	6.5	1.7	11.7	1.15	10.5	86
宮本早生	10.3	2.6	11.3	1.22	9.9	101
上野早生	5.1	1.3	11.9	1.15	10.4	105
興津早生	12.8	2.6	11.5	1.06	11.1	106

^{*}根域制限マルチ栽培は、防根シートを敷いた高畝に植栽し、8月上旬に地表面に防水透湿性資材を被覆した。潅水は適宜行った。

^{**2002~2004} 年 (9~11 年生時) の 3 か年の収穫適期 (10 月中下旬) に適熟果を分析し、平均値で示した。

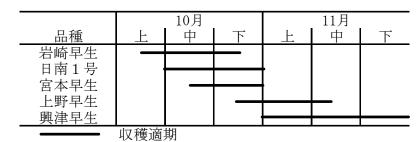


図1 極早生温州の収穫適期

[発表及び関連文献]

- 1 千葉県農業総合研究センター試験成績書(平成14~16年度)
- 2 (独)農業·生物系特定産業技術研究機構果樹研究所常緑果樹試験研究成績概要集 (平成 14~16 年度)

[その他]